

利用者から今後の目標を伺つてきました ～生活訓練から就労支援～

K・Y 様 女性 50歳

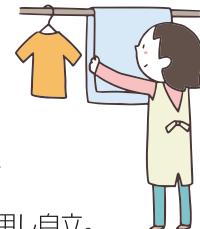
《仕事》 デイサービス勤務
ケアマネジャーと介護業務を兼務
《家族構成》 義母、夫、次男との4人暮らし
《趣味》 縫物、編み物

● 入所した経緯 ●

2022年2月中旬に腰部痛が出現し、歩行困難、移動や排泄に時間がかかるようになる。検査入院中、移動困難となり介助を要した。

2月下旬に脊椎硬膜外膿瘍に対して手術施行する。手術直後は、体位変換に介助が必要な状態であり、歩行不可であった。

その後、障害者施設を経て、2022年12月にハビリテーリングセンターに入所となる。



● 入所時からの生活動作の改善 ●

《移動》 歩行器での歩行訓練から開始し、現在は2本杖自立。

《ADL》 ・入浴：浴槽のまたぎ動作(座位・立位)に見守りが必要であったが、現在は個別入浴で自立。

・排泄：排便コントロールは現在も内服にて調整。入所時は、急な腹痛で間に合わないことがあり、後始末にも介助を要する。現在も不安は残っているが、パット交換も含め自立。

《IADL》 ・洗濯：現在は洗濯機を使用し、干し動作などの一連動作も自立。

・掃除：入所当初は車椅子でコードレス掃除機を使用していたが、現在は杖でコード式掃除機を使用し自立。

私の考える生活機能訓練

ハビリテーリングセンターは、ありがたいことに、洗濯機や掃除機の使用に関して、お金を支払う必要はなく、物干し竿も様々な人に合わせた環境が整っています。入所当初より、リハビリテーションスタッフとともに、様々な方法を施行錯誤しながら、自分でできる生活動作を獲得することができました。一日の生活を通して、洗濯や掃除などの日常動作の練習を行い、日々自身で活動することが一番良かったと感じています。

リハビリテーションの時間も大切だと思いますが、**24時間を通して、今後の生活を見据え、どのような生活を送るか**ということが大切であると思います。

心境の変化

手術直後は、リハビリテーションを受けることで、以前の様に歩けるようになると思っていました。初めは歩けないことがすごく辛かったです。しかし、日々の生活の中で、たくさんの職員の方々と、できるようになったことの喜びや達成感を分かち合うことで、やりがいへと繋がり、意欲の向上など相乗効果を生み出していると思います。

今は杖で歩ける自分を認められるようになりました。「今までできていたことができない」ではなく、「今の状態でどのような手段ができるようになるか」ということが大切だと思います。

今後の目標



2024年5月下旬頃に自宅復帰の予定です。現在は義母が家事全般を担ってくれていますが、杖を活用しながら、炊事や洗濯など自分でできる家事動作はしたいと思います。また今後は、調理訓練もしたいですし、帰ってからは家族と一緒にカートを使って買い物に行きたいです。

仕事は、以前の様な介護職は難しいために、関連の職場へ復職予定となっています。就労訓練として、パソコンで書類や表などの作成をしています。最初はイラストや表の作成などに苦労していましたが、今はできるようになってきました。

通勤手段は、自動車の手動運転も考えており、自動車学校での実技練習も行いました。今後は、改造車にてハビリへ通い、練習をしていきたいと考えています。

また、縫物や編み物が好きなので、自動車を運転して、手芸店に行き、自分の目で見て、生地や材料など買いたいです。自分の好きな服を選びに行ったり、友達とランチにも行きたいです。



取材・文責：広報編集部
取材：地域連携部

田上 大祐（仁淀病院）
障害福祉班
町田 佐和（高知大学医学部附属病院）
辻 美和（高知リハビリテーション専門職大学）
森 祐輔（だいいちリハビリテーション病院）
広報編集部